

2023年度 外国語学部(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
<p>1. 定員の充足 ①定員確保のための募集戦略 KPI:最低限230は確保(昨年度実績147) 志願者数増加100名以上(前年度実績629) -オープンキャンパスの来場者増加のため、OC内容改革、広報強化、SNSの利用 -年内入試強化(9月総合追加) KPI:年内入試割合85%以上 -入学前教育強化</p>	<p>1.定員確保のための募集戦略として①入試委員会の人数拡大も含め学部教員総協力体制を構築した②指定校枠を増やした③出張講義の実施回数拡大④9月総合実施⑤OC内容の見直し⑥入学前教育の充実化⑦入学前単位認定プログラム改善を行った 2. 実施結果:できるだけのことばやっていたつもりだが募集状況は昨年度並み</p>	<p>ほぼ実施できた。 90%以上</p>	<p>定員確保のため最善を尽くしてきたが、結果としては、昨年度並みの募集状況となった。(入学者数は151名<昨年度より4名増>、志願者数は579名)目標数値の65%達成</p>	<p>①学部教員総協力体制でも一部の教員に過度な負担があった。②指定校枠を増やしたが、志願者数は減った。③9月総合を実施したが、実際エントリーした学生は少なかった(33名)④入学前プログラムを改善したが参加者が少なかった。</p>	<p>①入試業務・出張講義など業務分担の適正化を図る。 ②指定校枠のさらなる拡大を検討 ③9月総合型選抜の見直し(選考方法の改善) ④入学前教育プログラムや入学前単位認定プログラムのさらなる充実化と広報 ⑤学部の教育情報の発信強化</p>
<p>2. 除籍・退学者改善 KPI:30名3.7%(前年度4.6%) -1年次指導の強化(履修指導) -全学年面談 -配慮学生指導強化 -留年率削減</p>	<p>除籍・退学者減少のため、1年次指導の強化(履修指導)、2年次を含め全学年面談を2回実施、配慮学生指導を強化した。</p>	<p>ほぼ実施できた。 90%以上</p>	<p>実施結果:目標達成には至らず。(今年度34名 4.2%)</p>	<p>前年度の結果は4.6%であった。目標数値を3.7%にしていたが、今年度の退学・除籍者は34名で4.2%になった。</p>	<p>1年次の退学者が既に15名もいる。1年次退学者を減らすための対策が必要である。他の学年においてもこれ以上の除籍・退学者が出ないよう2年次教育や学生面談など教員側ができることを徹底する。</p>
<p>3. 教育カリキュラムの強化 -2024年度新カリキュラムの運用の準備 ① 新「NDPI」にあったCPの徹底 ② 超少人数英語クラス(Speaking 8,Discussion 8など) -授業の質保証、教員確保 (英語非常勤講師のコマ数再考、それに伴う英語スキル教員の確保検討) ③ 基礎ゼミ(2年次):2024年度運用に向けて準備(パイロットクラスからのフィードバックを受ける) ④6つのプログラム制(2023年度開始) ⑤ショーケース、eポートフォリオの準備 →FDを実施する ⑥ティーチングポートフォリオの徹底</p>	<p>新カリキュラムの強化・運用のため①授業の質保証や時間割大枠を守るため、英語非常勤講師のコマ数を5コマ/週までに制限し、少人数クラスなど英語スキル授業を担当できる専任の特任教員を確保できた(BLEC付き1名)。また、専任英語教員の英語コマ数を増やしてもらった。②基礎ゼミ(2年次)の来年度運用に向けての準備完了③プログラム制運用開始(本年度英語プログラム1つ追加)④eポートフォリオのためのFD実施、プログラム制における学生評価に導入予定⑤教員評価表の評価項目にティーチングポートフォリオがあり、作成し自己評価する。</p>	<p>ほぼ実施できた。 90%以上</p>	<p>実施結果:すべての項目において計画通りに進んだ。プログラム制については学生への告知を徹底する必要がある。</p>	<p>来年度に向け時間割大枠に基づく科目の配置や担当者の配置ができた。新英語カリキュラムの運用のルールが整った(授業内容やテキストの統一)。基礎ゼミの準備ができた。</p>	<p>新DPHへの履行に伴いDP到達度チェックの体制を整える。次年度に向けては、時間割大枠に基づく科目の配置のみならず担当者の配置を早期に確定できるように取り組む。基礎ゼミを振り返りを実施し、改善点を整理する。基礎ゼミを2年次への学習サポートにもつなげる。プログラム制は科目コーディネーターの役割を明確にするとともに、評価方法としてeポートフォリオ・ショーケースの活用を徹底する。</p>
<p>4. 国際交流・グローバル教育の強化 ① 留学派遣・受入れの強化 海外留学、LUJ国内留学、国内フィールドワーク、海外フィールドワーク、国際連携教育プログラムへの参加者を増やす。 ② LUJとの協力体制の強化 イベント(プレゼン大会、OC、文京際)での協力、LU本校との交流、交換留学など打診 ③キャンパス内での国際交流 校内での留学生交流会、チャットラウンジ</p>	<p>①留学派遣・受入れの強化 派遣留学生数は、留学費用の高騰の影響もあって、英語圏への留学生数は少し減ったが、アジア圏やFW派遣、LUJ国内留学派遣を含めると、72名の学生が派遣留学に参加した。 ② LUJとの協力体制構築 春季と夏季のEAP国内留学に加え、今年度初めて単位交換留学も実施、1名が参加した。また、プレゼン大会を合同で開催し、オープンキャンパスや文京際でも連携した。LU本校と協定も結んだ。 ③GASP生2名を選抜した。</p>	<p>ほぼ実施できた。 90%以上</p>	<p>実施結果:すべての項目において概ね計画通りに進んだ。</p>	<p>※留学派遣者数 海外留学:アメリカ8名、オーストラリア13名、韓国5名、台湾2名、マレーシア1名、NZ11名、マルタ6名、海外フィールドワーク派遣:韓国20名、カナダ6名、LUJ国内留学(夏3名、春1名)、 ※留學生受入 フィールドワーク受入:カナダ14名、韓国4名、国際連携教育プログラム受入:21名</p>	<p>①入学後ガイダンスや先輩説明会などで、留学までの道しるべを案内し、留学費用捻出、履修などを総合的に考えて留学に結びつくよう案内する。 ②キャリア委員会、教務委員会と情報共有するだけでなく、海外派遣プログラム全体を見せて、相乗効果を狙う。 ③2024年度よりブルゴーニュ大学、東亜大学への留学プログラムが始まるが、その案内と共に、改めて既存プログラムについても周知を図る。 ④LUJとの単位交換(授業交換)を強化し、広報につなげる。</p>

2024年度 外国語学部

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
<p>1. 定員の充足 ①定員確保のための募集戦略 KPI:定員180名確保 志願者数増加800名以上(前年度実績579名) -引き続き、OCの充実化、広報強化、SNSを利用し、学部教育を発信 -年内入試のさらなる強化、留学生入試 KPI:年内入試割合85%以上 -入学前教育強化</p>
<p>2. 除籍・退学者改善 KPI:3.5%(前年度4.2%) -1年次・2年次指導の強化(履修指導、面談) -全学年面談 -配慮学生指導強化 -留年率削減</p>
<p>3. 教育カリキュラムの強化 ① 新DPHに基づくDP到達度のチェック体制確立 ② 2024年度新カリキュラムの振り返りや改善点整理 ③ 時間割大枠に基づく科目配置や教員配置徹底 ④プログラム制の本格的な運用 ⑤ショーケース、eポートフォリオの活用強化</p>
<p>4. 国際交流・グローバル教育の強化 ① 留学派遣・受入れの強化 海外留学、LUJ国内留学、国内フィールドワーク、海外フィールドワーク、国際連携教育プログラムへの参加者を増やす。 ② LUJとの協力体制の強化 イベント(プレゼン大会、OC、文京際)での協力、LU本校との交流、交換留学など打診 ③キャンパス内での国際交流 校内での留学生交流会、チャットラウンジ</p>

2023年度 外国語学部(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実施しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
5. キャリア教育 -内定率、実就職率の向上 KPI:内定率100% (前年度98.4%) 実就職率90%以上(前年度 80%) -キャリアデザインの運用などキャリア教育の再考 -キャリアイベントの学生への周知方法を再考	①内定率については、2024/5/1現在98.9%で昨年同期98.4%を上回った。実就職率も84.5%で昨年同期80%を大きく上回っている。 ②キャリア教育の強化については、学生の多様なキャリア形成に役立つため必須科目のキャリアデザインの単位数や配置を改めた。 ③キャリアイベントの周知方法としては、Teams以外にゼミ内で紙を配る方法を兼用した。	ほぼ実施できた。90%以上。	実施結果:すべての項目において概ね計画通りに進んだ。	評価 内定率については、2024/5/1現在98.9%で昨年同期98.4%を上回った。実就職率も84.5%で昨年同期80%を大きく上回っている。1年次からのキャリアデザイン科目の改善を図った。	理由/課題/根拠データ等 ゼミの先生方と連携し、学生の動きを把握し内定獲得まで個別支援を継続する。就活の早期化に対応して、また3年生を対象とした「就職活動に関するアンケート」を実施し、アンケート結果を基に今後のキャリア支援に活かしていく。
6. 組織・教員間の連携・コミュニケーション強化 ①各委員会の連携強化: -OC運用、入試、新入り運用において連携を図る。 ②教職センターと学部との連携強化 -教職生指導の連携 -情報共有の強化	FDを通じて教員間の議論の場を設けたりOC運用における協力体制をつくった。	80%以上	実施結果:学内業務の連携を図った。取り組みの中で課題も残った。	一部教員に負担が集中する結果が生じたりした。教員間の業務負担のバランスを図る必要がある。教職センターとの連携は来年度も引き続き行う必要がある。	教員間の業務負担に偏りがないよう次年度工夫していきたい。教職センターと連携し、教職履修生の指導や英語学習支援を行いたい。

2024年度 外国語学部

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
5. キャリア教育 -内定率、実就職率の向上 KPI:内定率100% (前年度3/31現在 93.8%) 実就職率90%以上(前年度3/31現在 83%) -キャリアデザインの運用と振り返り -キャリアイベントの学生への周知徹底
6. 組織・教員間の連携・コミュニケーション強化 ①各委員会の連携強化: -OC運用、入試、新入り運用において連携を図る。 ②教職センターと学部との連携強化 -教職生指導の連携 -情報共有の強化